立　野

練馬区立立野小学校
令和２年　５月号
http://www.tateno-e.nerima-tky.ed.jp

「小学校で季節を味わうこと」

副　校　長　　小　山　晴　美

正門前のしだれ桜は葉が風に揺れるようになり、新緑の季節を迎えました。学校休業日の中、校庭の季節は日々流れています。花吹雪の下、立野小学校に赴任してきて、子供たちと正式に出会えた日は１日しかありません。もどかしい思いをもちながらも、子供たちが再び元気な声を聞かせてくれる日を待ち、準備をしている日々です。子供たちとともに、立野小学校の四季を過ごしていきたいと願っています。

さて、私にとって、学校で季節を感じ、味わうことが３つあります。１つ目は、学校内に広がる生き物たちの移り変わりで感じる季節です。桜が終わり、今はつつじとたんぽぽが咲いています。校内の花々は、いつの季節も入れ替わりながら、美しさを伝えてくれます。訪れる鳥などの生き物も、時期によって違っています。また、ホームページでもお伝えしましたが、本来は子供たちと一緒に植えたかったジャガイモの苗を教員が植えました。この後、地下でぐんぐん育っていくことと思います。２年生は、育てたい野菜のアンケートをとり、これからの学習につなげていきます。こんな風な学習に係わることでも季節を味わうことができるのです。

２つめは、学校で行われる行事や集会です。春は、始業式・入学式から１年生を迎える会年次の始まりです。遠足や移動教室など校外に出る機会が増えて、暑さが訪れ夏になります。そして、涼やかさを感じるようになったころ運動会があり、文化的な学芸会などのある頃には、すっかり秋を迎えます。寒さが増していき、冬になると６年生を送る会を含め、学習の面でも、１年の締めくくりがやってきます。そして、再び春が見える頃に、卒業式を迎えます。しかし、３月からの新型コロナにかかわる学校休業のため、この行事などから感じる季節は、残念ながら味わうことができなくなっています。このような行事や集会は、日本の小学校の特色的な学びで、「みんなでやる、そしてみんなで成長していく。またそれを積み重ねていく」ことができます。学校が再開されたとき、三密を避けるために行事なども通常のように開催していくことは難しいと思いますが、だからこそ、仲間の大切さを意識できるように、お互いが共に生きていることを実感できるように、考えていきたいと思います。

３つめは、子供たちの成長です。３０年以上担任をしてきたので、ある時期になるとある学年の子供たちがぐんと成長するということを毎年繰り返し捉えてきました。４月は、短い始業式の中でも２年生の成長が感じ取れます。７月は、入学当初から成長した１年生の姿に驚かされます。２学期、夏休み明けの４年生は心身ともに高学年に近づきます。秋の行事を経た３年生は、まとまりが出てきます。そして、６年生の卒業を意識した変化が見られるようになり、３学期を迎えます。学校の様々を受け継ぐことで５年生が頼もしく思えてきます。そんな子供たちの成長が季節と一体になっています。

今年は、スタートから普段と違っています。しかし、子供たちはきっと日々の生活の中で、今年も成長を見せてくれるものと思います。いつもと違った時の流れをしている学校ですが、季節の移り変わりとともに、子供たちとともに素敵な時間をつくっていきたいと思います。